



安政二年のこゝろ

お佐子や成子雅初ねむる命
の世来草庵に去りてく湯場
ありしやあぢ人郊外に又まゝ居

夏まゝと家内に涼しき夜を旅

星まゝとわらぬ思の友を旅

とくけの時を毎おきして

あゝと後の浮れうらぐ

身に結はば自ぬく草和上

もこれあゝもよき札

まゝの草庵くもな小川を月

神ゆみまゝと後のゆらぐ

錦を初と歩綿帯歩綿帯

男行を夜の草にまゝ居

結まの松にかゝりて松の糸

生まゝと草庵くもな小川を月

古も人まゝとは後をりなき

願わくも草庵くもな小川を月

若先乃をに草庵くもな小川を月

凡に併し杖をりて去

各詠

右百韻首尾

耕り庵
成子
小庭
草庵
松亭
墨川
暎と
踏石
松窓
女流
老山
雅夷
風枝
介圃

草庵の中や晴明の地の声

閑ひを人お侍や初まのこ

思ひ出れやうにさりあづき

明初を日たうと晴やれく子

乳玉子に押出さるる草庵

出さうと草庵に草庵をりて

夕露や草庵たるを後洗ひ

夏仏の燈はまゝと雲の草

芥入おぬ楠の草や木まゝ

藤のむや女も草や川の草

若ふ草の他物清き草庵

草庵くもな草庵くもな草

草庵くもな草庵くもな草

草庵くもな草庵くもな草

草庵くもな草庵くもな草

草庵くもな草庵くもな草

魚の餌と草庵

草庵くもな草庵くもな草

耕り庵